

# 多賀工業会 東京支部会報

2001年 8月 第4号



桜の江戸城(皇居)田安門

平成13年3月編集部撮影

# 2001年 第4号 目次

	表紙説明	表紙	2
報 告	第21回東京支部総会開催のご案内		1
	東京支部長挨拶	渡辺 益男	1
	第20回東京支部総会報告	幸道 貞一	2
	平成12年度東京支部会計報告		3
	平成13年度東京支部予算案		3
回 想	新入会に寄せて	東 学	4
	昭和30年代の吼洋寮	宮沢 信夫	5
随 筆	新世紀に思うこと	渡辺 益男	7
	国際ラリー 零れ話あれこれ	難波 靖治	8
	停電(吼洋寮にて)	菊地 玲二	9
	ナマステの国ネパールでマンダラを知る	岡崎 文彦	10
紀 行	ブッタ(釈尊)生誕の地ルンビニへの紀行	鈴木 日出男	13
随 筆	雑誌を綴じた日記帳(悟苦楽帳)	小宅 仁	15
	科学技術の発展に思う	下ノ村 勇	17
記 事	惜別 (石川 守竹氏を追悼)	渡邊 貢	2
	多賀いちょう会ゴルフ大会	幸道 貞一	18
	囲碁同好会その後の歩み	山下 正明	18
	平成12年度年会費納入者		19
	編集後記		20
	多賀工業会東京支部会則		表紙3
	広告		表紙4

## 表紙の説明

「暁かけて匂うなる 桜の花に武士の  
ひそかにこめし想いこそ 我若人の心なれ  
五城樓春の月 清きかなその光」

会員の皆さまが、過ぎし青春時代に何度も歌われた吼洋寮逍遥歌のイメージを表紙にしたものです。  
若き日々を思い出して下さい。

表紙の題字は杉山 六郎会員 (昭24専舶)

## 第21回 多賀工業会東京支部総会開催のご案内

1. 日 時 平成13年10月6日(土) 午後3時から

2. 場 所 東条インベリアルパレス (右図参照)  
東京都千代田区麹町1-12

電話 03-3265-5111

地下鉄：営団半蔵門線半蔵門駅下車3番出口より徒歩3分

都バス：JR四ツ谷駅(麹町口)より晴海埠頭行03系統乗車・半蔵門下車徒歩2分

3. 会 費 10,000円

(当日受付けにて徴収します)

4. 講 演 (午後4時～5時まで)

演 題(仮)「地域に根ざし世界に通じる活動を求めて」

講 師 宇都宮大学教授

工学博士 秋山 光庸(昭34原動)

5. 懇親会 (午後5時15分～7時ごろまで)

6. お願

この会によって、同級生はじめ先輩・後輩の交流と親睦がはかれます。

東京には、いろいろな情報が集まりますので、皆さんにとって趣味と実益を兼ねた話題が豊富にあります。どうかふるってご出席ください。

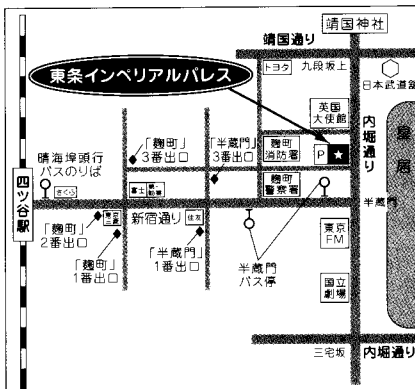
なお、ご出席できない方は、お手数でも同封の振込用紙にて、年会費2000円をお振込みくださるようお願い申し上げます。

7. お問い合わせ先

近江 義勝(昭28学電)

東京都文京区弥生2-8-6 TEL 03-3811-7088

勤務先=千代田工業(株) TEL 03-3811-3411



## 東京支部長挨拶 (第20回総会に当って) 渡辺 益男 (昭19専精)

本日は東京支部総会に当り、理事長はじめ各支部代表の御来臨をいただき誠に有難うございました。会員一同を代表して厚くお礼申し上げます。

東京支部が設立されてから20年になりますので成人式の年になります。スタートから埼玉、千葉など先輩支部の励ましをいただいていたりましたが、3年前からは会報も発行できるようになりました。今後内容のさらなる充実をはかることにしています。

特に昨年は多賀工業会60周年記念総会企画を東京支部が担当することになりましたが、故人東条会館東条社長の特別の御好意で、箱根ホテル芦ノ湖園を開放していただきまして大好評でした。

今日はこの後、音響メディア専門家の面白いお話と懇親会が続きます。時間の許す限りごゆっくりお楽しみ下さいますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

# 第20回東京支部総会報告

幸道 貞一（昭22専通）

第20回東京支部総会は、平成12年9月2日（土）、東條会館の新館（インペリアルパレス）5Fで総会、講演会、懇親会の順序で開催されました。今年の司会は順序として30年の方をお願いすることとし、総会と講演会は鈴木 日出男氏（原30）、懇親会は石川 英二氏（原30）をお願いしました。会員の出席は約80名で、残念ながら例年より低調でした。

来賓として、本部より榊井 正義理事長（電37）、各支部からは仙台・渡部幹事長（電37）、いわき・駒木根支部長代理（電39）、栃木・小沼支部長（機30）、埼玉・中原支部長代理（電28）、千葉・小室副支部長（電32）、静岡・信太幹事長（電45）、水戸勝田支部・山本前支部長（通20）の出席を賜りました。総会は渡辺支部長（精19）の挨拶に始まり、来賓代表として榊井理事長から50周年を迎えた茨城大学の現状と21世紀に向けて大学は如何にあるべきかとの観点から、

## 惜 別（石川 守竹氏を追悼）

渡邊 貢（昭26原動）

平成9年初夏の幹事会で、積年の課題は多いがまず会報から始めよう。来年こそ会報を発行して情報をお届けしようとの気運が高まっていました。しかし、編集委員をとなるとなかなか決まりません。理工系の卒業生ではあっても博学の士が多い。会報に対する期待が大きいのか、長い沈黙が続きました…。

「私でよかったですやらせて頂きます。ただし一切を私にお任せください」石川さんの自信たっぷりの提言でした。ラグビー部OB会の会報を数十年の間一人で編集発行してきた石川さんは、あの沈黙の間、支部会報の表紙、写真、割付、投稿者の顔などを思い浮かべたに違いない。労力、経費、会報2誌の平行編集は、何度かの手術を乗り越えてきた体には健康の保証はない。だが同窓生への思いが、俺がやるから付いてこいと即断したのだと思います。それから1年、予定通り創刊号が誕生しました。あるとき石川さ

国際交流（留学生約200名）、少子化対応、環境問題、大学院の充実など懇切に解説され大いに参考になりました。議事としては、行事計画と会計報告が行われ、行事計画では支部会報（第3号）に支部活動の活性化を図るため、ゴルフと囲碁同好会について、発足のお知らせを掲載したが、その周知を図りました。

講演会は“映画・TV音の秘密”と題して、音響技術専門学校講師で音響効果の専門家である木村 哲人氏から、音響効果について擬似音の発生方法とその舞台裏を面白く解説、最後に音発生の実験（米、ごま、塩を使った雨の音）までしていただいた。滅多に聞けない話なので、非常に興味深いものがありました。

懇親会は各支部代表でご出席の皆様の紹介に始まり、乾杯の音頭は一番若手の東 学氏（平成8院）で賑やかに開宴し、お互いに旧交を暖め歓談し、校歌・寮歌の斉唱の頃は大いに盛り上がりました。最後は、大原 祥生氏（機38）に三・三・七拍子で締めてもらいました。そのあと石川 英二氏の閉会の辞で19時ごろ無事終了しました。

んが言いました。皆さんが立派な会報が出来たと褒めてくれるけれど、第3号まで出来てみないと本当にいいものかどうかは分からない。第3号が出来たとき、この会報の果たす役割が分かって頂けると思うよ。そこで次の人にバトンタッチだなあ……と。

自分の命を知っていたのでしょうか。昨年の夏、三度目の手術を終えて、自宅養療中に会報第3号が出来上がりました。石川さんはそれを見て、暑い日でしたが是非役員会議に出席したいといって、家族の運転する車で出席されました。そして会報に対する思いを余すところなく語り「これで私の役目は終わった」「後は頼むよ」とすべてを果たした喜びの眼差しと笑顔でお帰りになりました。

訃報が届いたのは間もなくのことでした。術後でも医師が驚くほどの元気と気力の人でした。多賀工業会、生涯のラグビー、第14期甲種飛行予科練習生など、仲間への思いを昇華した石川さんは本当に強い人でした。

ここから感謝を申し上げますと共に、石川守竹さんのご冥福をお祈りします。

# 平成12年度 多賀工業会東京支部会計報告

(平成12年4月1日～平成13年3月31日)

収入の部	金額 (円)	支出の部	金額 (円)
前期繰越金残高	437,698	第20回総会開催費	637,500
第20回総会会費 58名(うち5千円×2名)	570,000	懇親会費	520,000
本部援助金	250,000	講師謝礼	50,000
年会費 270名分	540,000	出席者名簿作成費	50,400
会議費 個人負担分	32,000	雑費	17,100
広告料 3社分	15,000	第3号会報発行費	669,323
寄付金 市島氏ほか1名	13,000	印刷製本・封筒代	492,450
利子	78	会報発送代	176,873
		会議費	155,454
		幹事会7回延べ34名	
		出張費	158,190
		関西支部ほか5支部へ出席 援助費	45,000
		支部対抗ゴルフ大会補助	30,000
		多賀いちよう会ゴルフ補助	10,000
		囲碁同好会発足お祝金	5,000
		慶弔費 石川守竹氏生花代	15,750
		通信費	21,150
		雑費	5,333
		次期繰越金	150,076
合計	1,857,776	合計	1,857,776

上記の通り相違ない事を認めます。  
平成13年 3月31日

会計係 溝口 知昭



監査 近江 義勝



# 平成13年度 多賀工業会東京支部予算案

(平成13年4月1日～平成14年3月31日)

収入の部	金額 (円)	支出の部	金額 (円)
前期繰越金残高	150,076	第21回総会開催費	800,000
第21回総会会費 約80名分	800,000	懇親会費	700,000
年会費 300名分	600,000	講師謝礼	50,000
本部援助金	250,000	出席者名簿作成費	50,000
		第4号会報発行費	700,000
		印刷製本・封筒代	500,000
		会報発送費	200,000
		会議費	150,000
		幹事会ほか	
		次期繰越金	150,076
合計	1,800,076	合計	1,800,076

# 新入会に寄せて

東 學 (平成8院)



世紀の変わりめに伝統ある多賀工業会東京支部に入会させて頂き有り難うございました。東京支部第20回総会の案内を戴き早速参加をお願い致しました。当日は新米故に早めの会場訪問と

しました。そのせいもあり幹事の方々は忙しく会の進行チェックをされていたようです。恐る恐る受け付けに進むと、受付の方は胸札の古参域に立ちお名前とは問われる。平成8年卒と告げると怪訝な目で問い返される。そうでしょうね、数日前に田舎の同窓友人達と古稀(田舎は数え年)の祝会を終えて来たばかりです。正式会費を払い、これまた控えめに後方片隅に着座して資料など読んでいたら、受付幹事の方と会長が近づき「新入会員の会費は半額」です、と残金を差し出されました。今まで類似の会合ではむしろ高額出資の組だけに一瞬戸惑ってしまった。しかも、当日出席会員の最新者が恒例の乾杯の音頭取りを告げられると、会の始まるまであれこれ思案の長かったこと、やはり新参者と言った心境でした。

## 放電プラズマによる 有害排ガス浄化に取り組む

しかし会も始まり、各幹事の力強いご挨拶を伺っている内、やはり自分の想いにも燃ゆるものを感じました。実は、私も自動車産業に関与する業界で産業発展に永年寄与したと自負しておりました。ところが、現役に少し時間のゆとりが出来ると反省もする。良かれと励んで来た技術の産物が、実は地球環境汚染の元凶でもあったといわれる。こんな後味の悪いことは有りません。ならば、専門としてきた電気屋から見た排ガス浄化は出来ないかと、放電プラズマ技術を利用した有害排ガス浄化技術に取り組んだ。そのため放電プラズマの先生とも言える、地球極地のオーロラ現象観察と体験を試みた。そして、茨城大学大学院にも学び、結果的には平成

8年学位も取得し、今日この伝統ある多賀工業会の一員とさせて貰ったわけです。

## 新世紀に向け 地球環境保全の舵取り役を

オーロラ現象は、我々人間の遠く及ばない宇宙や太陽系を含めた偉大なるエネルギーを駆使した自然現象である。我々はこの地球表皮内外のあらゆる資源を使って前向きな経済活動をしてきた。今になってみると、その結果が現在の環境汚染問題を増長させているのです。それは、我々の周囲に有る物質をあまりに「バケガク」的エネルギー利用技術にばかり走って来た観があります。これからは宇宙からのエネルギー・太陽エネルギー、そして物質それぞれが温存している量子物理学的エネルギー(我々生体機能に似せた)取り出し技術に重きを置く時代ではなからうか。

一毛作時代素晴らしい技術を治めて来られた諸先輩方の多い多賀工業会と感じました。この21世紀のスタートに当たり、今進みつつある若い一毛作中の良きアドバイザーとなる二毛作人生に励み、地球環境保全を第一義とする新技術の舵取り役を期待するものです。そして、多賀工業会東京支部の更なる発展を祈願いたします。

## 有料道路のETCサービス開始

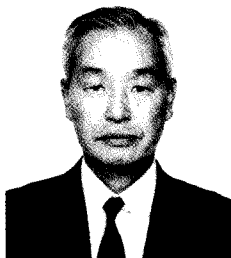
日本道路公団および首都高速道路公団では、このほど千葉エリアの東関東自動車道、新空港自動車道、京葉道路、館山自動車道、千葉東金道路、東京湾アクアラインとアクア連絡道の45料金所および首都高速道路公団の東京線、神奈川線、埼玉線の11料金所と、日本道路公団の沖縄自動車道、南風原道路の7料金所に設置したETC(ノンストップ自動料金収受システム)のサービス活動を開始した。本年秋までには、全国約540料金所で、ETCのサービスを開始する。

ETC(Electronic Toll Collection System)は、無線通信を利用して有料道路の料金所で止まることなく自動的に料金支払いを行い、料金所渋滞の緩和やキャッシュレス化による利便性の向上をはかるシステムです。(T.S)

# 昭和30年代の吼洋寮

宮沢 信夫 (昭37機械)

水戸から多賀に移り、寮に入るようになった。工学部が多賀高専であった頃の太平洋戦争末期に、日立製作所が米軍の標的となり、最大級の無差別艦砲射撃を受けた際、吼洋寮および向かいの官舎も巻き添えを食らい、早川校長先生ご一家および寮生の何人かも犠牲になられたことを記した碑が、門と玄関の間に建てられていた。この寮は古い木造二階建てではあるが、何か神聖な所であるように感じられた。



12畳の畳敷きの部分と8畳程の板の間が通路を挟んで左右一対で一部屋を構成していた。畳敷きの部分に先輩三人新人一人が同室で、左右8人の共同生活である。このような部屋が廊下を通じ7部屋連なり、その先に便所があり、二階も同じ造りで東寮、西寮、南寮の3棟があり、その外に食堂と風呂場があった。

## 悩まされた「部屋回り」

入寮数日後に、新入寮生が先輩に顔を覚えてもらう「部屋回り」の行事が待っていた。これは避けることのできない関門である。各部屋の先輩諸兄はそれぞれ趣向を凝らし新入寮生を待ち構えているのである。部屋を尋ね挨拶をすると「声が小さい」と罵声がとぶ。自己紹介を終えると質問が始まる。ある部屋では「この寮に桜の木が何本あったか数えてきたか」との問いに、わかりませんと答えると「今すぐ数えて来い」との要求がくる。外へ出て数えて報告し、やっと開放してもらうのである。

次の部屋では春4月にもかかわらず、柱につかまり「ミーンミーン」と蟬の真似をするよう要求される。これは腕の力、腹筋および声を試される。

ある部屋では、仏壇が作っており、艦砲射撃で亡くなった恩師、先輩を拝むように言われ、素直に拝まないものなら、竹刀を持った自称前科5犯の先輩の「たたき出すぞ」との威嚇がくる。

丁重に拜んでパスとなる。

ある部屋では、ろうそくだけの明かりのところで「この寮では、艦砲射撃で亡くなった先輩の霊が夜な夜な現れ、上級生の言うことを聴かぬ者を諭しに来る」「ゾー」と最後大声を出して脅かされたりした。またある部屋では母校の校歌をうたうよう要求されたこともあった。全部屋を回り終わる頃は、真夜中であった。この経験が先輩を知ることにも役立ち、また新入寮生のまとまりを良くすることにもなった。

それまで酒の味を知らなかったが、「人生楽しみが少ないよりも多い方がよい」との信念を持っている友に酒を勧められた。回を重ねるたびにその味を知ることとなり、アルコールなら何でもござれの体質であることも判明した。

## 芸達者な寮生に学ぶ

寮では囲碁、将棋、麻雀が盛んであった。ギターの達者な友もいて、「第三の男」「禁じられた遊び」「雨だれ」など良い曲を聴かせてもらった。またバツハに詳しい友もいて、水戸のブルボンで「ブランデンブルク協奏曲」「管弦楽組曲」「無伴奏チェロソナタ」などを聴かせてもらった。こちらの気分が如何なる状態の時でも、心和ませてくれる不思議な魅力に出会った。ヴィバルディの「四季」を聴いたのもこの頃であり、随分きれいな曲があるものだなあと感激したのもである。

また、歌心のある友はフォーレのレクイエム、カタリなどを口ずさむ者もいた。さらにウクレレ片手にハワイアンを歌う友もいた。別の部屋ではハワイアンバンドを結成し、本格的に打ち込む寮生もいた。

一方、下宿生活をしていたある友は、自分はいびきをかくので寮に入ることを遠慮しているのだと言う。寮ではいびきをかく者の方が多く、なかには歯ざしりする者だっている。寝言などは日常茶飯事であり、多くの友が得られ、経済的にも楽になるはずだから是非寮に入った方がよいと勧め、本人も納得して寮生となった。

## 異文化の香りを放す留学生

香港から私費留学で来ていた友は、河原子に日本人4~5人と同じ下宿生活をしていた。そこにはトイレが1つしかなく、朝のラッシュアワーに

彼が占有してしまうため、他の連中は使えず、困っているとの話が伝わって来た。本人に確かめるとワラシ(私)の国では、一家にトイレが二つはあるよと平然としている。これが異文化の香りかと思ったが、解決の方法は一つしかないと考えた。各棟一階にも二階にも10個ほどトイレのある寮に入ってもらふことである。もっとも風通しの良さでは超一流ではあるが、私の説得で二つ返事でOKとなり、我々の仲間入りをすることとなった。経済的にも楽になったはずである。もう一人、水戸からの電車通学の友は、姉上の家から通っていた。寮は気楽で独特の青春があると勧め、入ることとなりその後3年の時に他の仲間と共に、寮委員として大活躍をするきっかけとなった。

### 1960年安保闘争に参加

機械3年の時、順番が回ってきて我々のクラスメートが寮の委員を担当することとなった。丁度60年安保闘争の真っ直中、東京で樺美智子さんが学生運動中に亡くなるという痛ましい事件が起きた。工学部の学生としても我が国の将来について、他人事という訳にはいかなかった。寮委員が中心になって協議を行い、代表一人を東京に派遣することとなった。

一方、我々も寮生総出で日立の街中を、手製のプラカードを持ちデモを行った。生まれて初めてのデモ参加であった。我々の寮にはいわゆる活動家はいなかったの、その後は静かになった。

寮生の大半はアルバイトをしていた。もっとも一般的なのは家庭教師である。割りの良いアルバイトは、日製の部品を指定日時に、指定された工場(例、住友金属和歌山)に届ける運び屋である。大抵夜行とか特急を使わないと間に合わない。また岡山の農家まで「いぐさ」刈りに行く者もいた。

### 酒飲みの極意を知る

また当時としては珍しく単身赴任をされておられる先生も、寮の直ぐ近くの所に住んでおられた。この先生は寮に時々おみえになり、一緒に飲まれることがあった。アルコール類は、アルコール度の低いものから、だんだん強いものを飲むようにすれば、例えばチャンポンをしてもそん

なに悪酔いはしないこと、および飲み屋で店の女性に声をかける際、あまり年齢にはこだわらず「お嬢さん」と呼びかけるのがこつであるとの、酒飲みの極意を教わった。

### 良く学び良く遊べ

寮の名物にストームがあった。街で酒を飲んできては、他の部屋に「ストーム」と高らかに挨拶してから上がり込み、世情のこと、学業のこと特に機械科では4力(材料力学、熱力学、流体力学、構造力学)が重要で必須であること、遊びのこと、趣味のことなどを相手の迷惑を省みず、酔った勢いで議論を交わしたものだ。

4年生の後期には卒業機械設計もまとめなければならぬが、寮には有り難いことに、先輩の描いた図面が残っており、これを参考に比較的早く仕上げることができた。まさか参考にした先輩と同じ会社に入るなどとは、思ってもいなかった。

しかし、何と言っても、車座になって多くの友と酒を酌み交わし、議論をし、唄を歌い、楽器を奏でそして聴き、時には麻雀をすることが楽しみだった。

### わが友に勝る宝なし

多くの先生方から学問はもちろん、身近な距離で社会人になるための人の道を教えていただき、そして我が友に勝る宝はなしと誇れる友に恵まれ、無事巣立つことができたのは、木造バラックの吼洋寮があればこそその思いが今でも心を離れない。

### 照沼氏が春の叙勲を受章

去る4月29日、政府が発表した春の叙勲で、多賀工業会東京支部の照沼清氏(昭29学金属)が、勲四等旭日小綬章を受章しました。

受章の理由は、同氏が元通商産業省工業技術院公害資源研究所資源第一部長として、長年にわたる功績が認められたものです。

心からお祝いとお喜びを申し上げます。今後とも健康には十分ご留意のうえ後輩の指導に当られますようお願いしております。

# 新世紀に思うこと

渡辺 益男 (昭19専精)

昨年末西暦2000年を迎えるに当り、コンピューター誤作動問題で大騒ぎをしたが、時間の経過と共に、あのときの騒ぎは何だったのかと思うほどに、殆んど忘れ去られてしまった。

何処かで誰かが右を見ろとささやくと、皆で一斉に右を向き、右ばかり気にしておかしいよと誰かいうと、慌てて皆が左へ向き直る。

このような性向を単一民族の単純思考と誰かが評論すると、たちまち「そうだ、そうだ日本人はみんなそうだ」と相槌を打つ。何か変ですね。

## 「わび、さび」こそ世界に誇る日本の美

昔、ドイツの建築家ブルノー・タウトが来日し、数年滞在したが、その時、簡素で調和の美しい桂離宮や伊勢神宮社殿を観て感激し、日本美の象徴と絶賛した。

それまでは、日光東照宮や徳川霊廟等の豊かな装飾性が日本美の特質といわれていたが、日本美の風潮が変化し、簡素な様式に昇華された「わび、さび」こそ世界に誇る美の真髄と語られることが多くなった。

日本美とは、日本人が長い生活を通して積み出したものを貯えた澱のようなものと考えられる。

日本文化の中の美意識は外来文化にふれ、その感触や刺激に影響をうけて醸成されている。

先日、奈良に遊んだが、そのとき訪れた法隆寺五重塔や金堂は仏教伝来を通して中国に学びながら日本そのものを感じさせる日本的味が感じられる。

## 新世紀は世界人口とエネルギー問題

いよいよ21世紀を迎えようとするとき、世界中で宗教的または民族的紛争等諸々の問題が発生しているが、我々は今まで通り、傍観しているだけでいいのか。今世紀の問題を先送りしてしまった世界人口問題でも、21世紀なかばには100億人に達するといわれ、その時に起こることとして食料の逼迫による社会不安等がせまっている。人口急増地域のアフリカ等は内乱や飢饉による難民問題などが頻発するであろうと予

感される。

人口問題とからむ問題であるが、増加人口の大多数は、発展途上国でその増加した人々が先進各国と同様の生活水準と消費を求めた場合エネルギー問題は解決不可能なほど、深刻な状況になることが明らかである。

今使用されている化石燃料は、現状の消費でも21世紀半ばには涸渇するといわれるが、未だ代替エネルギーは開発されていない。

## 解決必須の地球環境保全

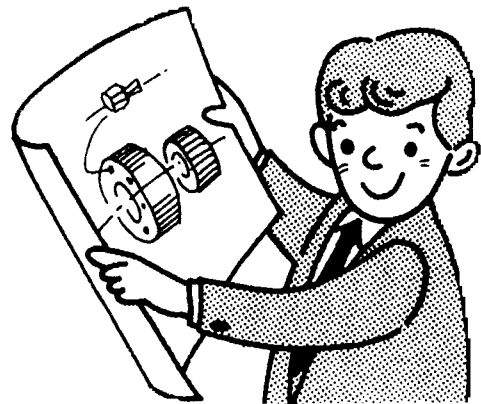
我々は、人口増加という追いあげがなくとも、あらゆる省エネルギーシステムを駆使して、有限エネルギー資源の持続をはからなければならないはずである。

かつ化石燃料は燃焼時炭酸ガスを発生する。この炭酸ガスは地球温暖化をはじめ、海面の上昇、緑地の砂漠化、天候不順の増大等、刻々に地球保全上の不安要因を加算させている。

日頃我々は、流行や娯楽を求めている消費行動、スクラップ・アンド・ビルト的都市再開発等の活動が地球に与えている障害を認識しなければならない。

近年消失した記憶に新しい建物として、帝国ホテル旧館、東京駅前旧丸ビル、東京都旧庁舎等大変な数になるが何か大切なものを落してしまったのではと思う。

今後は、現存する建物に対して、壊さずに利用できないか、古い家具、調度、衣類は修理して使用できないか、消費生活を根本から見直す等、地球保全や省エネルギーについて深く考えなければと思う。



# 国際ラリー零れ話あれこれ

難波 靖治 (昭23機械)

時代錯誤といわれるかも知れないが、「戦争により科学技術が急速に発展する」と、昔の人がいわれたのを思い出し、「戦争」を「競争」「極限」「競技」「合戦」などに置き換えて、自分のテストパイロット(車両開発実験)の仕事そのものを生かし、昭和33年、オーストラリヤ一周ラリーにドライバーとして初参加、19日間の悪戦苦闘の末、日本の4輪車で日本人ドライバーが初めて日の丸を揚げる結果となり、以来ニッサン・チームのドライバー・監督・総監督と38年間この道を歩み続けた。



まづ自動車競技には、大きく分けてレース・ラリー・その他の三つに分類できる。

日産自動車としては、直接商品が出場できるラリーを選び、「世界中に輸出できる車造り」を旗印に昭和33年から、国際ラリーに出場し続けることになった。

## オーストラリヤラリー

昭和33年オーストラリヤ一周16,000Kmラリーの結果は、優勝という輝かしい成果であったが、「この車は輸出できません」と報告し、社長や役員への驚きと、お叱りをうけたのを覚えている。それは、自動車その物が輸入物で、凶面をはじめ全ての部品が米語で、この年まで日産車は、エンジンのボルトナットは吋ネジで、シャシーボデーのボルトナットは耗ネジであったためラリー車の搭載工具、12丁組両口スパナ・12丁組メガネレンチ、24駒のボックスレンチなどは全て吋と耗の2セットずつ積むことになり、他の(外国)チームからは「お前の会社は工具も売るのか」と冷やかされた。

翌昭和34年度量衡法改定により日本は「耗」に統一されると同時に、日産は「耗」ネジに統一された第一号の車「ブルーバード」を発表し、輸出も開始した。

国際ラリーで得た成果は極めて大きく、毎年

参加が計画されていたが、われわれが優勝した1958年に居眠りが原因で直線コースで転倒事故を起こし、ドライバーとナビゲーターの死亡が確認され、国際自動車連盟(FIA)は「国際公認ラリーは5日間を限度とする」と決定、発表したため、当然豪州一周ラリーは開催不可能となり、その歴史を閉じることとなり、私のチャンピオンベルトは永久に個人保存となった。

## 東アフリカサファリーラリー

豪州ラリーがなくなり、それに変わる過酷なラリーを探した結果、当時のウガンダ、ケニア、タンザニアの3カ国を5日間で5,000Km、しかも高度差は0~2,800mで、温度差は8℃~40℃までと大変過酷な「東アフリカサファリーラリー」があることを知り、1963年第11回東アフリカサファリーラリーから参加したが、この年は84台出走、完走わずか7台という超過酷な結果であったが、継続することが重要であり、将来につながることに参加し続けた。

豪州一周ラリーで初参加初優勝した私は、自信というか錯覚というかドライバーとして短距離と長距離、しかも刻々と変わる路面状況に対応できず、更に車両故障を起こし、踏んだり蹴つたりの連続であった。67年ニッサンチーム監督になり、次の目標を揚げた。

## 優勝のための三つの目標

1) 車両性能(耐久力を含む)を世界水準になるべく、サファリーラリー中のトラブルの原因と対策について設計部にフィードバックし、確実に生産車に採用する努力をした。そして、車両性能は30%の責任を担うこととした。

2) ドライバーは、アフリカの大自然を相手にしたハードなラリーだけに、ただ速いだけでなく、アフリカの大自然を知り、さらに大きく分けて3種類の土質(道路の色)を瞬時に判断し、スピードをコントロールしなければならない。私が監督になった1967年(第15回サファリー)までの15年全て地元ケニアのドライバーのみが優勝

(次頁へつづく)

# 停電 (吼洋寮にて)

菊地 玲二 (昭26通信)

昭和23年桜が満開の日製日立病院で身体検査の後、晴れて吼洋寮に入寮、恒例の部屋廻りの洗礼を受け、寮生活の一步を踏み出した。



## 飯の代りに「ザラメ」が配給

寮生活にも馴れた頃、飯の代りに「ザラメ」が配給になった。別にそれだからといって三食の飯が無くなる訳では無い。何となく飯の中の芋が多くなった程度だから気にもならない。

さて「ザラメ」をどうして食するか？当然「カルメ焼」にするしかない。夕食後の夜食となる。

どういう訳か寮の各部屋には備品のような顔をして「オタマ」が転がっていた。

それを使って「カルメ焼」を造るのだが、それなりの熟練した技が必要。別に商売をする訳ではないので、出来上りはどうしても良さそうなものだが、出来そこないの「カルメ焼」など食えたものではない。「ザラメ」を直接口にした方が素直な味だ。

## 「ザラメ」からカルメ焼を作る

とにかく「カルメ焼」を造るには、「オタマ」を熱

し、太い棒でグルグルと溶けた「ザラメ」をかき廻し、頃を見計らって重曹を入れ、フワーとふくらんだ処で火からおろし、固まった処で取出す。

別に焼き方の「ノウハウ」はどうしても良いけど、今流に言えばこの「カルメ焼」に「ハマル」のである。

## カルメ焼の熱源に電熱器を使う

熱源といえば電熱器であり、夕食後皆んなで焼けば、当然の如くブスとかズドンというような鈍い音と共に電気が消える。しかし全寮消える訳ではない。どこかの棟はフューズが切れない。

停電した棟の誰かが走る。多分共済委員であろう、寮本館2階にある配電盤に行き、予備のフューズに取替える。しかし、消費電力が変らなければまたフューズは切れる。

## 電熱器の使用で停電の持廻り

そうそう予備のフューズが有る訳はない。するとどこか切れてないフューズを失敬する。失敬された棟は停電する。

かくて停電の持廻りが始まる。実に不思議な光景である。しかし、良くしたもので、誰かが「カルメ焼」を諦める。すると自然と停電の持廻りが解消するのである。

私の記憶では停電の持廻りも時代と共に「ザラメ」の配給が無くなり、卒業する頃には停電も起きなくなった。

今では考えられない光景でした。

(前頁よりつづく)

している事実から、我がチームも地元ケニアドライバーを中心に、30%の責任を担うこととした。

3)メカニック(サービス隊…メカ)の目的は、ラリー車を短時間に整備し走らせること、故障の無い場合は燃料補給、潤滑油点検補給、タイヤ交換だけは最低行うこと。そして最低26回燃料補給されるため、作業時間短縮を重点にメカの教育訓練を実施(東郷元帥…訓練に制限はない)。まづ20ℓのポリ缶を必要数の2倍購入、空気抜穴が燃料出口穴の1/10しか無いので、ポリ缶2個を1個にした(空気穴と燃料出口穴を同じにした)。20ℓの燃料補給時間を半分以下の18秒を完成した。またラリー車が停止してから、

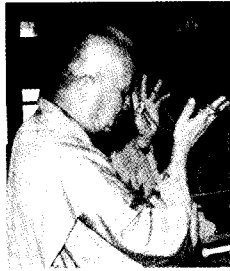
ドライバーからキーを受取り、トランクと燃料タンクの蓋を開け、燃料補給後同じ2カ所をロックしキーをドライバーに返してスタートさせる。この時間12秒。これを無くせば5分間の短縮になる。そこでサファリーでは使わない①スロットルワイヤー・②チョークワイヤーの先端をトランクリッド・フューエルリッドのそれぞれに取り付け、ドライバーはラリー車が停止と同時にエンジンキーを抜く代わりに、①②のノブを同時に引けば直ちに燃料補給作業になる。これらの訓練を徹底して行い、メカ40%の責任をもたせた。

1969年見事優勝したのは、上記3項目100%の実力が発揮できたからで、以後5年連続優勝した記録は未だに破られていない。

# ナマステの国ネパールでマンダラを知る

岡崎 文彦（昭28年電気）

このたび私は、鈴木日出男さんの誘いを受け、多賀の先輩の仲間に入れて頂き、10月18日から29日にかけて、仏の国、マンダラの国、ナマステの国ネパールを旅し、帰国して荷物を整理しながら、今テレビで大相撲九州場所を見ている。



## 大相撲の土俵は「マンダラ」だ

大相撲の土俵をじっと見ていると、先日までネパールで見てきた旧宮殿・ヒンドウ教寺院の造り、部落ごとに見かける、白い漆喰で作られているお堂の広場などに見られるマンダラの形が、土俵とだぶってよみがえる。まさに大相撲の土俵はマンダラだ。もともとマンダラの形は、古代インドの王城を模したものといわれている。

今回の旅行中、ご案内戴いた美人ガイドの麗抜・釈迦〔Renu・Shakya〕さんの説明によると、ネパールの首都、カトマンドウは〔カト〕と〔マンドウ〕の合成語で、

カト〔Kath〕＝〔木〕であり

マンドウ〔Mandu〕＝〔広場〕〔聖なる広場〕で、即ち

ネパールの首都カトマンドウは、一本の大木から建てられたといわれるカスタマングブ寺院を中心に開けた〔聖なる広場〕首都それ自体が、マンダラだという。

ネパールの街を見て歩いて感じたことだが、ネパールの街には実に多くのマンダラを売る店があり、日本人と見ると「マンダラ、安いよ、安いよ」と日本語の声の店の中から掛ってくる。店の中を覗くと、ネワールの仏画師が、マンダラを描いている姿を良く見かけた。道端では、小さな子供達が「マンダラ、安いよ、安いよ」と怪しげな絵を売りにくる。

私は今回の旅行中、二三の人から「マンダラ」とは何かと質問され、この時とばかり、仏教とくに密教のマンダラについて薄学を披露したが、相手にどれほど理解してもらえたか？ かえっ

てよけい、混乱させたかも知れない。今日本に帰って来て大相撲をみて、「そうだこれがマンダラだ」と強く感じた。

今後「マンダラとは何か」と尋ねられたら、即座に「大相撲の土俵だ」と答えることにしよう。何故なら、ネパールで見てきたマンダラと同じく、大相撲の土俵が、密教でいうマンダラのルーツと感じたからだ。

大相撲の土俵は土で盛って四角の土壇を築き、中心に円形の土俵が造られている。

昔は屋根を支える四本の柱があったが、いまは屋根は天井から吊るされ、四本の柱の代わりに色鮮やかな四色の房が屋根から垂れ下がっている。この四色の房は守護神をあらわす。すなわち、土俵はまた中国の古い占いの一種である「風水説」により、四神が守る「四神相応」の聖地「マンダラ」として造られている。大相撲の土俵は、

東は青房 東の守護神の青竜が守り

南は赤房 南の守護神の朱雀が守り

西は白房 西の守護神の白虎が守り

北は黒房 北の守護神の玄武が守る

聖地である。

なお、土俵は15日間力士が神に力を奉納するため、そのつど作壇され、千秋楽を終わると破壇される。

## 密教の護摩壇と相撲の土俵は共通

チベット密教では、現在でも護摩をたく時、日を選んで土壇を築き、位の高い僧がそこで護摩をたき、供物を捧げる。その横では護摩に合わせて大勢の僧侶が楽器を奏し、法螺貝を吹き、声明を唱える。護摩が終われば、土壇は一回かぎり破壇される習わしで、これが土壇マンダラである。

この土壇マンダラの流れが、真言宗、天台宗の修験行者が、今でも行っている柴燈護摩に受け継がれている。

すなわち柴燈護摩は、大相撲の土俵と同じく、護摩を焚く時、土壇を築き、四方に竹の柱を建て、荒縄を張り、

東北隅に青色の御幣を付け降三世夜叉明王  
南東隅に白色の御幣を付け軍陀利夜叉明王  
西南隅に赤色の御幣を付け大威徳夜叉明王  
北西隅に黒色の御幣を付け金剛夜叉明王  
に、護摩壇の加護を祈願し結果する。

中央に護摩壇を組み、黄色の御幣を付けて、  
大日大聖不動明王の降臨を祈願し、大祇師が  
柴燈護摩を修法する式衆は法螺貝を吹き、お経  
を唱える。護摩が終われば、一回で破壇する。

このように、日本で修験行者が柴燈護摩供を  
厳修する際に作壇する護摩壇、チベット密教の  
護摩壇と、大相撲の土俵とは共通性があり、共  
にマンダラだ。

そこで、改めてマンダラとはなにかを考えて  
みよう。

### マンダラとは仏の「さとり」である

曼荼羅というのは、サンスクリット語のマンダ  
ラの音訳であり、漢字それ自体に意味はない。  
[そこでここでは、漢字を使わずマンダラとする]

マンダラは「マンダ」と「ラ」の合成語で、

「マンダ」は「心髄」あるいは「本質」「醍醐」と  
いった中心の意味であるとされ、

「ラ」は「物の所有」を表す接尾語からなると  
解釈する。

だから、マンダラとは「本質を有するもの」と  
いった意味の言葉であり、仏教での「本質」は  
「さとり」の世界であるから、ほとけの「さとり」の  
境地がマンダラである。

一般にマンダラといえは、真言宗の寺院の本  
堂に掲げられている胎蔵界・金剛界の両界マン  
ダラをさし、さまざまな色と形をした仏、菩薩、  
明王などが一面に描かれている仏画で代表さ  
れる。仏教思想・宇宙観を幾何学的に表現した  
ものがマンダラと思われている。

私はこの密教の両会マンダラの胎蔵界マンダ  
ラを、われわれが来た世界、ビッグバンの世界  
と理解し、金剛界のマンダラを、これから行  
く世界、ブラックホールの世界と考えている。し  
かもマンダラには、中心性・複数性・調和性・  
流動性などいくつかの要素を備えている必要が  
ある。

いくら素晴らしい仏画でも、ご本尊さんだけの  
仏画ではマンダラとはいわない。すなわち中心  
があり、複数で、調和がとれていて、ダイナミッ

クでなくてはならない。また逆にこの四要素を  
備えていれば、密教でいうマンダラと本質的に  
は離れていようが、拡大解釈することもできる。

密教のマンダラに対し、ネパールで使われて  
いるマンダラは、とても便利な言葉のようで、今  
でも日常語として、いろいろな意味に使われて  
いる。その中で広場、集合、区分、円輪、本質  
的なもの、壇、道場があり、日常生活に溶け込  
んでいる。

### 何にでも使える言葉「ナマステ」とは

マンダラと同じく、生活の中に溶け込んでい  
る言葉で、私がネパールを旅して覚えた唯一の  
言葉の「ナマステ」がある。おはよう、こんにち  
は、こんばんは、さようなら、など何にでも使え  
る言葉だ。しかし、帰国して文献で知ったが、  
本来は気楽な調子の挨拶に使う言葉とは程遠  
く、敬虔な、あらたまつた重々しい仏教用語で  
ある。

ナマステの「ナマ」は、ヒンドゥー教徒がシバ  
ア神に捧げる真言「オー・ナム・シバア・ヤ」〔シ  
バ神に帰依いたします〕や、仏教徒が仏のまえ  
で唱える真言の「南無阿弥陀仏」〔阿弥陀仏に  
帰依いたします〕の「南無」で、「帰依」「礼拝」  
「敬礼」を意味する。「テ」は「あなたに」である。

故に「ナマステ」は「貴方に帰依します」で、  
当然「ナマステ」と唱えるときは合掌とワンセッ  
トであり、ナマステの奥にある精神がマンダラ  
のルーツである。

ネパールは敬虔なヒンドゥー教、仏教国で、ネ  
パール人の心には、「マンダラ」「ナマステ」思想  
が、代々受け継がれて今日に至り、その心がわ  
れわれ日本に伝わってきている。

### マンダラが 日本でも有効利用されている

日本でも近年では、伝統的なマンダラ理解に  
加えて、深層心理学〔ユングの描いた絵などに  
見られる〕生理学、歴史地理学などにも、マンダ  
ラが有効に利用されている。

そこで私もマンダラを拡大解釈して、外のマ  
ンダラ「可視的マンダラ」内のマンダラ「不可視  
的マンダラ」を含め、世の中を眺めてみたら、有  
るは有るはそこら中にマンダラがある。「マダラ  
模様」のマダラもマンダラから出た言葉であり、

特にこれがマンダラだと感じたのはIT機器の配電盤だ。これこそマンダラの構成要素全てを満たして余りあり、じっと見つめていると、胎蔵界のマンダラと重なってくる。LSIは如来であり、ICは菩薩、他の部品は明王、天である。

さらに京都の8月16日お盆の大文字、五山の送り火もまた日本最大のマンダラだ。

大文字の「大」は大日如来を表す「大」でマンダラの主尊が大日如来だから「大」でマンダラを表わす。即ち向かって右の「大」が「胎蔵界マンダラ」を左の「大」は「金剛界マンダラ」で「舟形」は水を表し「鳥居形」は火を表わす。また中央に現れる「妙法」は御本尊だ。その昔、弘法大師が京都の自坊の東寺から、京都御所を護摩壇と見立て、火と水で、京都の街を清め、お盆最後の日にわれわれの祖先が迷うことなく、気持ち良く霊界にお帰り願うための護摩供養をしたのがお盆の送り火だ。式衆は京都のお寺で、この護摩供を盛りたてたのは、京都の街の大衆と考えると、京都の街全体がマンダラになる。

#### 四国の遍路もマンダラ

また四国の遍路もマンダラで、  
東－阿波の国は発心の道場  
南－土佐の国は修行の道場  
西－伊予の国は菩提の道場  
北－讃岐の国は涅槃の道場

と遍路を続け、更にここで終わることなく、また阿波の国・・・と四国を「胎蔵界のマンダラ」と見立て、歩きながらさどりの境地を身を持って体得する場、メビウスの帯の終りの無きマンダラの道場で巡り巡って力尽き、四国の土になるのが、四国の遍路であった。

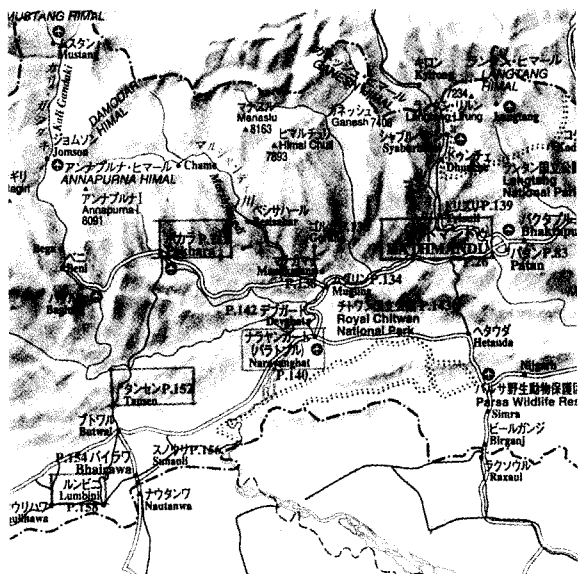
このようにネパール・インドで起ったマンダラ概念は、日本で有効に利用され、信仰の場、さらに日常生活に深く根付いていて、ネパールと日本は仏教を通じて、日常的にも非常に近い国であり、心のふるさとだ。今回ネパールを旅して、マンダラとは何かが多少理解できた思いである。

最後に、今回ネパール旅行にご一緒して戴いた先輩諸氏にたいし、口害を垂れ流したことに對しこの場をお借りして深くお詫びいたします。

#### NPOナマステさくら会にご協力を

なおNPOナマステさくら会〔準備中〕で日本およびわれわれ多賀工業会と縁の深い、こころの故郷ネパールに、桜の木を寄贈する準備を進めており、さくら並木・さくら公園を夢見ています。同時に世界で最も貧しい国の一つであるネパールの子供たちにノート、鉛筆など文具品の寄贈も考えており、会員の募集をしていますのでご協力をお願い致します。

連絡先 茨城県鹿島郡旭村上釜中沢178-2  
TEL・FAX 0291-37-4192  
RXP03530@nifty.ne.jp



カトマンズからルンビニまでの周辺地図



多賀会、黒砂会のメンバー（鈴木が写す）

# ブッタ(釈尊)生誕の地ルンビニへの紀行

鈴木 日出男 (昭30原動)

この紀行は、平成12年9月29日より12月27日までカトマンズに滞在中、大学がテハール祭りのためネパール旅行中の多賀会(柳田夫妻19年専精、田島さん20年専精、宮武夫妻25年専機、岡崎さん28年電)、黒砂会、成井君と同行した時の日記の一部です。

## 10月22日(日) 晴

カトマンズを3台の車で9時30分に出発。1台のランドクルーザーには柳田夫妻、田島さん、私とドライバーの5名、1台は宮武夫妻、岡崎さん、成井君とドライバーの5名、もう1台のマイクロバスには、黒砂会(植田先生とその関係者)とラマさん(オーナー)一行だった。カトマンズより西に位置する湖とアンナプルナ連峰の展望で知られているポカラまで200km。右手にトリシュリ川、左手は切り立った山並みの曲がりくねった道路をひたすら走った。この道路は日本でいうと東海道だが、ネパールの東海道は簡易舗装で所々穴があいていて、ボロのトラックが黒い排気ガスを出してノロノロ走っている。クラクションを鳴らして私達の車がトラックを追い越す。右左にカーブする。その都度中央の柳田さんの奥さんは、柳田さんと田島さんにあたる。でも楽しそうだった。途中河に吊橋あり、一本のロープの渡しがあり、またラフティングを楽しむ人あり、車窓から見えて飽きない。ナムチェバザールでトイレ休憩してまた走る。

カトマンズより110km離れたムグリンのリバーサイドホテルで昼食となる。車を降りた時に時計を見ると12時30分だった。リバーサイドホテルは道路より石段を20段ほど降りた河に面したホテルで、プールもあり外人客も多くて綺麗なホテルだ。

ネパール料理でビールを飲む。多賀会一行は良く飲む(因に6名で日本酒12本持参)。2時間30分位走り、15時30分にポカラのホテルモナリザに到着した。ホテルモナリザは昨年私達が利用したペワ湖に面したこじんまりしたホテルだ。ペワ湖とここから見える名峰マチャプチャレは、写真家の斉田さん(28年機械)の大好きな所だ。ホテルのママさんが私のことを覚えてくれていて、昨年同様ロキシー(ネパールの焼酎)とヤクのジャーキーのつまみをサービスしてくれて、一同大喜びだっ

た。特に柳田さんはヤクのジャーキーが大好きのようなだった。久しぶりの日本食と日本酒の夕食に皆大満足だった。ペワ湖畔の夜は静かだった。

## 10月23日(月) 朝霧深し 晴

5時ホテルをスタートしてノーダラ(海拔2000m)にアンナプルナ山群を見に出かける。一行眠い目で車に乗り暗い山道を走る。ノーダラに着き7時頃まで待つが、霧が晴れず山群は見えない。岡崎大僧正?の祈りでも霧は晴れない。

ホテルより持参の朝食をここで食べる予定だったが、私達を見て子供や土産売りが集まってきたし、寒くなってきたので車で降ることにした。

土産売り達がうるさく、付き纏うので、宮武さんの奥さんは少しカルチャーショックを受けたようだった。

柳田さんの奥さんは、始めは土産売り達をうるさく思っていたようだが、ゲーム感覚でデスクアウトのやり取りを楽しんでいたようだった。

途中の坂道の広場に車を止め、持参した朝食(オニギリ、厚焼卵等)をシジミの味噌汁で食べる。3~4人子供が集まって来たので残り物をあげる。女の子が指先を怪我をしていたので、柳田さんの奥さんがバンドエードを張ってあげ、スベアー2~3枚プレゼントする。日本の菓など見たこともないので、大喜びだった。

11時ホテルモナリザをチェックアウトして、今夜の宿泊先のフルバリリゾートに向かう。ポカラの中心地より5km離れた5ツ星のホテルだ。幹線道路より細い道に入るとネパール特有の日乾レンガの家が両側に点在しているのを見ながらガタガタ道を走ると、突然立派な建物が見えてくる。ゲートを通り敷地内に入り、大きく迂回して正面玄関に着く。敷地内は芝生で池にはボートが浮かび、ヘルスセンターの建物、バーベキューハウスなどが点在しており、専用のゴルフ場まである。

正面玄関のドア前に、気を付け姿のガードマンが敬礼をしてくれる。日本の帝国ホテル並みで、とてもネパールのホテルとは思えない。

昼食後ペワ湖畔を散策する。夕食は別棟の鉄板焼きハウスで肉あり、魚あり、野菜ありの食事とビール、日本酒で楽しむ。途中で生バンドの演奏

があり、多賀会一行は寮歌、逍遙歌を歌い、ご夫人方はダンスを楽しんだ。皆酩酊したので酒代の幹事は几帳面の宮武さんに適役だった。

## 10月24日(火) 晴

今朝もアンナプルナ山群は霧の中。『山を見ずに帰る人は金持ちだ』というネパールのいい伝えがあるそうだ。多賀会の一行為は皆金持ちなんだ。もう一度来いということだ。

昼食を持参してフルバリリゾートを10時出発した。いよいよタンセンに一泊してブッタ(釈尊)生誕地ルンビニに向かう日程のスタートだ。

ポカラより80km離れたタンセンに向かう。この道はアップダウンとカーブの続くホコリの舞え上がる山道で、前を走る車が見えない。山道の両側の木々はホコリで真っ白だ。柳田さんの奥さんは『ネパールの雪景色だ』といていた。

深く切り込んだ渓谷は美しかった。『観光で生きるネパールだからもっと道路を良くすれば客が来るだろう』などと柳田さん。田島さんはネパール政府を非難しながらホコリだらけの山道を車に揺られていた。

河の流れに沿った道路で、車を河原に乗り入れて、ホテルより持参した昼食を食べる。河の水はきれいで、河原でアンモナイトの化石を探す谁也見つけれない。またホコリ、ホコリとカーブの連続する山道をひたすら走る。柳田さんと田島さんは、運転手の技術に感心していた。

18時20分中世の面影を残す古都タンセンに到着した。タンセンはマハーバーラタ山地の尾根すじに開けた町で、丘の上に建つ町一番といわれるホテルシャリンガーに宿泊したが、町一番といっても山小屋並みだ。シャワーを浴びて夕食。例の如くビールと日本酒で愉快的な食事だった。

## 10月25日(水) 晴

朝丘の上に建つホテルから木々に囲まれた町は見えるが、アンナプルナ山群は見えない。今日はブッタ(釈尊)生誕の地ルンビニ(Lumbini)に行く日のため岡崎大僧正?は袈裟を着て、線香と花を用意して、皆さんの先祖の供養をしてあげると大張り切りだ。いつも柳田さんの奥さんに『岡崎さん、口はチャック』といわれているが、今日は忘れたように雄弁だ。お布施なしで先祖の供養してもらえるのだから我慢して聞いた。

9時にホテルを出発し、下り坂のタンセンの町中を買い物したり、写真を撮ったりして歩き車の駐車場に集合し、10時すぎタンセンを後にルンビニに向かう。ルンビニは仏教の四大聖地の一つであり、唯一ネパール領内にある聖地で、ブッタ(釈尊)生誕地でなければ、インド国境に近いタライ平原の小さな農村にすぎない。

タンセンよりルンビニまでは、昨日の山道と違い少しはましだ。タライ平原に入ると、アップダウンがなく、直線の道路が続く周りは稲の実った田圃だ。12時すぎ聖園に着いた。聖園入口にあるルンビニ開発公社で一人だけ記帳して園内に入る。想像していたより静かで、遺跡が散らばっているだけだった。

\*ブッタ(釈尊)生誕像を納めたマーヤ聖堂(Maya Devi Temple)

\*王妃マーヤが出産前に沐浴して王子(ブッタ、釈尊)の産湯に使用したといわれているシッター池と大菩提樹

\*この地に生まれたブッタ(釈尊)を敬いアショカ王が建てた記念石 アショカ王の石柱(Asoka Pillar)

がありA.D.636年三蔵法師の見た数多くのストウバヤ僧院の面影はなく、無常を感じるだけだった。

マーヤ聖堂の中に入り正座して、岡崎大僧正?の般若心経で各々の先祖の供養をして頂いた。その時はいつもの酒を飲んだ時の顔と違い、岡崎大僧正?初め皆まじめだった。聖園の土産店で、ブッタ(釈尊)に因んだ土産物を買った。皆デスクアウトが上手になり楽しく買い物をしていた。

昼食はルンビニ法華ホテル。このホテルは、日本のホテルチェーン法華クラブの経営で、清水建設施工で和室もあり日本食が美味しいとネパールでも評判のホテルだ。ソバと親子どんは美味しかった。タライ平原の真っ直ぐな良い道路を快調に走り、チトワン国立公園の入口で交通の要所にあるナラヤンガードのサファリナラヤニホテルに16時45分に到着した。

その後日誌は続きますが、多賀会、黒砂会一行は、10月26日チトワン国立公園内のジャングルのロッジに一泊して、27日カトマンズに帰り10月28日Mt Flightでエベレストを見てカトマンズを発ち、無事帰国しました。私達も10月31日より新学期が始まりました。

# 雑誌を綴じた日記帳（悟苦楽帳）

小宅 仁（昭36学電）

今年（AD2000年）6月に入ってから、新しい会社に移る準備のため溜まりに溜まった文書類の整理をしていたところ、すこし黄ばんで埃にまみれた粗末な日記帳が目に残りました。それはコピーした文書の裏を使い、表と裏にボール紙の表紙を付け、左側に穴を穿ち綴じ紐で結んだメモ帳ともいえる日記帳でした。約50頁からなり、概ね1頁に2日分のメモが記してあり、1984年6月23日（土）から同年9月18日（火）までの日々を書き綴ってありました。



頁をめくってみると懐かしい日々が思い出され、捨ててしまう気にもなれず、自宅の本箱の片隅に差し込んですっかり忘れておりましたところ、会報に寄稿したらとのお誘いを受けました。そのとき、ふと日記帳のことを思い出し、その頃のことを忘れないうちに、少しばかりまとめておこうという気持ちになり、お引き受けさせて頂くことになった次第です。

その日記帳の厚紙の表紙には「極楽鳥」とタイトルが付いておりましたが、その内側の内表紙にはいろいろなタイトルが書かれてあります。「極楽鳥」というのは、インドネシアに生息する鳥で天然記念物に指定されている色鮮やかな珍鳥です。“Cenderawasih”とインドネシアでは呼ばれており、英語では“Bird of Paradise”と呼ばれ、私にとって天国に棲む鳥は、南の国の天国に住むような楽しい生活を象徴するものとして、その名をいただいたわけです。

しかし、もうひとつの同音異義の文字群があり、括弧に括られた中に「悟苦楽帳」と記しております。当初は「吾苦楽帳」と綴ったのですが、日記を書き始めてから一週間後にその文字列を次のような文章で修正を加えた理由を説明してありました。

「吾苦楽帳」は唯苦楽を綴るのみの意味故に「悟苦楽帳」とし、己を自ら高めるための日記としたい。従って表紙の第一文字に「悟」（リッシン

偏）を加え、そのとき吾から悟るための心構えに生活における考え方を切り替えたようであります。

悟苦楽の意味することは、インドネシア滞在において仕事の面と、そして仕事を遂行する上の文化の違いによる両面がありました。この文化の違いについては、やはり他地（よそ）から来た者がその違いを悟り、迎合しなければならないことは自明の理であると思うのです。その幾つかが悟苦楽帳に記されているので、当時を懐かしみながら紹介してみましよう。

## 「宗教の重みについて」

インドネシアの90%がイスラム教徒であり、特に私の友人や仕事のパートナーには敬虔な人たちが多く、殆んど宗教観を持たない小生や現地滞在していた同胞とは全く異なるのであります。まず断食についてですが、一ヶ月間の断食期間のラマダンは殆んど仕事にならなくなってしまいます。太陽のある間は一切食物を口にしないで、家に帰ってから彼らは初めて食事をしますが、その食事は結構豪勢なもので、知り合いの人々と一緒に会食することもあるようであります。そのため就寝は夜遅くになり、さらにインドネシアでの仕事の開始は7時でしたので、どうしても睡眠時間が少なくなり、ソフトウェアの開発に従事するには少々厳しい様子でありました。

もうひとつの宗教行事は金曜日のモスクでの礼拝であります。毎日5回のメッカに向かってのお祈りに加え、金曜日の正午から始まるモスクでの礼拝からはもう仕事にならないと考えた方が良かったのです。しかし、これらは暑い国における人々にとって精神的安らぎと健康維持のためには必要不可欠なことなのかもしれません。

## 「明日という言葉」

インドネシア語にBesok（ベソック）という言葉があります。「明日」という言葉ですが、これの真の意味を理解して馴れるまでには大変苦労しました。夕方に仕事を頼むと「ベソック」という返

事が返ってくることが多いのです。言葉通りに、明日一番にでも処理してくれるのかと思うと一向に出来上がらないのです。これは「後でやるかどうか考えてみる」ということで「明日やりますヨ」ということは何も意味していないのです。そのことが分かってからは、翌日朝一番に、仕事を再度依頼することにしました。それから、こちらもそのようにスケジュールを組むし、何か信頼して頼めるようになり、作業もスムーズに流れるようになった気がしましたが、相手の考え方を理解することで豊かになれるものだと実感したものです。

### 「いろいろな仕事がある」

たまの休日に、じっとホテルにいるのは健康上良くないということで、テニスを楽しもうということになりました。私と同僚の二人で出掛けたのですが、ストロークを楽しんでいるときコートの脇や後方に何人かの男性がいて、前後にそれたボールを追いかけ拾ってくれていたのです。しかし、私と同僚は日本でのテニスプレーヤーが普通にするように、ボールが手元に無くなると、ネットにそして後方にボールを拾いに行き、出来る限りのボールをポケットに入れ、そして片手に持てるだけのボールを握りプレーを再開するのです。コートサイドにいる男性が何をするためにいるのかも全然考えもしませんでしたので、彼らが少々邪魔にさえ思えたのでした。プレーを終えて帰るときに、彼らはチップ、チップと請求してきましたので、暫く何故請求されるのか気付かず不愉快な思いをしておりましたが、やっとボールボーイであることに気が付き、チップを渡すことになりました。その後はボールボーイをおおいに頼りにし、チップも弾んで楽しいテニス生活をする事ができるようになり、それから約5ヵ月間大変お世話になりました。

### 「救急車出動できず」

ある朝、出勤して間もなく日本人メンバーの一人が急に強烈な胃痛に襲われました。大変な苦しみようで一刻も早く病院へ連れて行くべきと判断し、滞在する会社が所有する救急車の出動を要請した。しかし、何時まで経っても来ないので、救急車のある場所に行ってみると、われわれの面倒を見てくれる下働きの担当

者がオロオロしており、出動のための何の動きも見えないのです。聞いてみると、まず車の鍵が見あたらず、そして運転手がいなくて途方に呉れているとのことでした。そのうちやっと運転手が見つかり、鍵も本人が持っていたということで、一件落着となるはずでありましたが、なんと良く見ると救急車の前に一台の車が止めてあり、動くに動けない状態であることが判ったのです。さてそれではその車の持ち主はということで、またまた持ち主探しと相成ったのですが、とうとう我慢ならず、たまたま来社した当社の乗用車の後部座席に寝かせて、病院に運ぶことになってしまいました。大事に至らずそっと胸をなで下ろしましたが、近代的道具とその使い方を充分修得していない様子を見せられ、われわれが建設する施設もそうならなければと思った次第でした。

その他色々な文化の違いを体験することになりましたが、この違いを良く見つめ視点を変えてみると、インドネシアの人々との触れ合いの中に、実に友情や思いやりに満ちた行動が見え、彼らがわれわれ日本人の文化にできるだけ合わせてくれるようとしている姿を感じることができたのです。一緒に仕事をしてくれたインドネシアの友人やそのサポーターに心から感謝し、21世紀が彼らにとって輝く世紀となることを祈りたいと思います。

当時一緒に仕事をした方々の多くが、現在インドネシア通信事業の要職にあることは頼もしいかぎりであります。



# 科学技術の発展に想う

下ノ村 勇 (昭42学精)

卒業してから早くも34年。その数字を見ると大変長い年月ですが、自分の想いとしては、あつという間のような気がします。



2学年の1963年11月、下宿先に帰り、日米間の衛星通信中継を見ようとテレビのスイッチをいれました。そこへジョンソン副大統領の顔が大写しされ、ケネディー大統領の暗殺を伝えているではありませんか。大変なショックを感じました。それと同時に、地球の反対側の出来事が「ON TIME」で見られるという技術の進歩に、目を見張りました。

## 20世紀は科学と技術進歩の時代

20世紀は、科学と技術の進歩の時代ではなかったでしょうか。

●1960年人工衛星第一号。ソ連により打ち上げ。●1961年有人衛星ソ連により打ち上げ。●1962年日本初の原子炉による発電の成功。●ソ連衛星ルナ9号月面着陸。●アメリカのアポロ11号による月面に人類初の一步。●1978年体外受精児誕生。●1997年クローン羊「ドリー」誕生。●2000年人の遺伝子情報はほぼ解読。

このように大変なスピードで科学技術は進歩しました。一方、進歩に伴う負の出来事も多数発生しました。

●1956年水俣病の発見。●1959年水俣病の原因が有機水銀であることが判明。●1962年サリドマイド禍。●1967年富山のイタイイタイ病、四日市工場排煙によるぜんそく病。●1979年アメリカスリーマイル島大量放射能もれ。●1986年チェルノブイリ原発大事故。●1999年東海村臨界事故。

## 21世紀は遺伝子情報の有効利用

これからの21世紀には、遺伝子情報を使った病気の克服による超長寿社会の現出があるだろう。クローン技術により、自分自身の細胞を増殖させ、臓器を作り、保管し、自分の臓器が悪

くなった時、交換することも技術的に可能となるであろう。このようなことが人間の本当の幸せを作り出すものなのでしょうか。

死というものがあってはじめて生の大切さを実感し、生の尊さを重んじるのではないのでしょうか。これからの21世紀が、こういった問題を解決できるものと信じていますが、なぜ、このようなことを書き連ねたかと申しますと、社会人になって間もない頃、技術に関する小論文を書く機会がありました。技術の進歩に係わる端くれとして、技術というものが、人間の幸せを本当に達成するものであるのかという疑問について書いたことを覚えています。今でもその疑問は残っています。

## 人間の幸せとはどこにある

私自身、生まれは東京江戸川区ですが、終戦後の1946年(2才)から1952年(8才)まで、大分県国東半島(今では石仏で有名)の付け根の真玉という寒村に育ちました。半農半漁の大変貧しい村で、夕方の挨拶が「食ったかや」、即ち今日「食事をとることが出来ましたか」ということです。それほど貧しい村でしたが、川、海、山がすぐ近くにあり、自然の大変豊かな所でした。毎日、毎日、心豊かに過していた気がします。先年、真玉に住んでいた伯母が、百一才でなくなり葬儀に参列しました。20年ぶりに訪ずれ、子供の頃、共に遊んだ人にも会いました。漁師をし、ノリ養殖をしているその人の逞しく日焼けした顔のおだやかさ。都会の人間にはない豊かさが現われていました。

経済的には私の方が豊かであるはずだが、人間としてはどちらが幸せなのか、つくづく考えさせられました。

社会人となり、人間が作った「時間と金」という怪物に引きずり回される毎日の中で、心の奥底に埋もれていた「技術の進歩への疑問」が沸き上がるのを感じました。

しかしながら、東京に帰れば、忙しい毎日が続きます。今、現在、中小企業に身を置き、90数名の従業員とその家族の幸せを考えると、自分自身の想いだけでは動けなくなっております。

あと7~8年「時間と金」という怪物と闘う生活を続けなければならないでしょう。もうひとがんばりと思ってがんばっていきます。

## 多賀いちょう会ゴルフ大会

支部会報(第3号)に東京支部ゴルフ同好会の入会ご案内を掲載し、会員の募集からスタートしたが、会報をみて自主的に参加申し込みされた方は数名で心許無く、昨年の箱根でのゴルフ大会に参加した人にアタックし、また口コミを利用してとりあえず12名のメンバーを集めることができた。あとは会場と開催日であるが、神奈川県在住が多いので、ホームコースの小田原城C・Cに決め、11月22日(水)3パーティーで仮予約をした。

心配なのは天候であり、3組12名が一人でも欠けることである。結果として当日は天気は曇りであったが、風もなく温暖でベストコンディションで



した。秋口なので日没が早く心配しましたが、簡単な打ち上げと表彰式も無事終わりました。

優勝は難波氏(23機)、ベストは白土氏(24機)でした。小田原城C・Cは山岳コースですが、全部カートで回れるので楽です。結論として参加して頂いた皆さんには、非常に喜んでいただき、会員相互の親睦を深めることができ、世話役として遣り甲斐のある仕事でした。

### (参加者12名)

- 1組 幸道貞一 山崎恵三 山口宣之 田北嵩晴  
 2組 渡辺益男 難波靖治 玉川信二 佐藤幸一  
 3組 白土四男 近江義勝 桜井 衛 小林章夫

	グロス	ハンデ	ネット
優勝 難波靖治(23機)	100	27.6	72.4
準優勝 桜井 衛(38機)	95	21.6	73.4
3位 小林章夫(39機)	98	22.8	75.2

幸道 貞一 (22通)

## 囲碁同好会その後の歩み

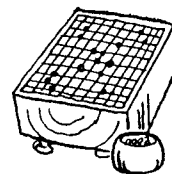
### 東京支部囲碁同好会

囲碁同好会の発足については、昨年の東京支部会報で発表しましたが、その後の経過をお知らせいたします。第1回囲碁大会は、平成12年2月27日(日)日本棋院東京本院で開催し、4名の参加者で対局しました。その後、回を重ねるごとに同好の士が増え、現在会員数は12名となっております。第5回囲碁大会は平成13年2月10日(土)に開催し、10名の参加者で、各自5局づつ真剣に対局を行いました。対局後は毎回懇親会を行っており、活発な意見交換や反省を行い、研鑽の場として、有意義な楽しいひとときを過ごしております。今後も囲碁大会は、2月・5月・8月・11月の第2土曜日に、日本棋院東京本院で開催することにしておりますので、参加希望者は奮ってご参加してください。現在の会員は次の通りです。

- (20専機)宮木敏夫二段 (22専通)幸道貞一初段  
 (28学機)関 英雄四段 (28学機)小白井和典四段  
 (28学電)近江義勝2級 (30学原)石川英二二段  
 (32学電)小室秋生四段 (32学電)高橋武雄2級  
 (32学電)田口嘉男五段 (32学電)田崎耕八二段  
 (32学電)山下正明六段 (33短電)佐藤 馨1級

### 連絡先

練馬区西大泉3-25-10 山下 正明(昭32学電)  
 TEL(03)3922-2143 FAX(03)3922-2143



# 平成12年度年会費納入者

(平成12年6月1日～13年2月28日まで)  
(敬称略、順不同)

## 〔寄附者〕

18年金 市島 武雄      23年通 荒川 宜夫  
19年精 渡辺 益男      24年精 平木 康一

## 〔年会費納入者〕

16年機 大矢 純一	16年機 森本 裕	19年金 福水 久男	16年原 小笠原 正視
16年電 沢村 武男	16年金 池上 駿三	19年機 掛川 宗三郎	17年原 志賀 武弘
16年電 中村 和夫	16年原 小川 義夫	20年機 宮本 敏夫	17年精 足立 高嶺
17年金 田辺 良美	16年精 敦賀 草三	20年電 加藤 庸夫	18年金 山田 実
17年原 渡辺 幸男	17年金 川合 泰也	22年機 乗 智成	18年原 石井 督三
18年機 山本 栄治	17年金 飯島 一昭	22年通 丸山 武志	19年機 土屋 正雄
18年電 北條 秀雄	17年金 黒川 憲三	22年舶 石井 清	19年精 橋本 良夫
18年電 八角 方二	18年機 飯塚 節夫	24年舶 飯野 二郎	19年精 林 栄
19年金 雨貝 忍	18年金 市島 健男	25年精 加藤 達男	19年通 梅田 智良
19年原 栃木 二郎	18年電 関根 宗一	26年精 関内 正	20年通 石坂 陽之助
19年精 芝 敏夫	19年機 平山 光信	29年電 森 章太郎	20年電 乙黒 正春
19年精 青木 孝夫	19年原 川尻 悦三	30年原 石川 英二	20年電 竹内 康夫
19年精 小泉 篤	19年精 渡辺 益男	31年原 山崎 慎一郎	22年精 副島 幸夫
19年電 斎田 貞夫	19年精 小松 定男	32年機 伊藤 義次	22年通 田中 徹
20年電 都築 久一	19年電 櫻井 可清	32年機 川又 俊夫	22年通 前田 豊昭
22年機 立花 浩	19年電 浅見 隆	32年電 田口 嘉男	23年教機 山本 衛
22年機 富山 保	20年機 岡本 公夫	33年機 照沼 義光	23年金 村山 昭平
22年機 佐藤 喬太郎	20年原 海老原謙次郎	33年原 吉久保 節男	23年原 内田 昭三
22年金 塩田 信雄	20年電 山内 宏	34年機 藤田 邦男	23年原 藤原 健之輔
22年通 幸道 貞一	20年電 柴田 信夫	34年電 加藤 滋	24年教機 田倉 重光
22年通 中村 弘	22年機 植竹 恒男	34年電 結城 祐	24年原 真中 四郎
22年通 谷口 貞作	22年金 土井 浩一	36年機 上月 秀俊	24年精 鳥山 尚利
22年通 菊池 契吉	22年金 明石 和夫	36年機 柏木 尚	25年機 宮本 長覚
23年金 蓑田 栄	23年機 梅田 政夫	36年電 橋本 正直	25年原 忍田 邦夫
23年通 荒川 宜夫	23年機 岩瀬 章	37年機 坏 弘	26年金 有賀 久
23年通 森尻 茂	23年教電 浦井 毅	37年機 飯岡 弘道	26年原 永山 正美
23年通 飯村 功	24年教機 杉山 光典	37年機 宮沢 信夫	28年電 稲見 孝
23年電 鈴木 八夫	24年精 檜山 広	37年機 岩田 正路	29年原 大久保 半吾
23年舶 森 栄一郎	24年通 海老原 和	37年金 篠原 康祐	31年機 新田 和夫
24年原 真中 和夫	25年電 村山 錦右	37年金 橋本 善巳	32年原 段家 文彦
25年原 石橋 弘	26年通 菊地 玲二	38年機 駒場 方耀	35年機 原田 武保
25年精 京野 五一	28年金 池田 潤一	38年機 櫻井 衛	36年機 森永 隆宏
26年原 齐藤 昭	30年機 戸田 浜幸	38年電 広瀬 行一	36年電 小宅 仁
26年精 藤本 史郎	30年金 黒澤 正蔵	38年電 佐々木登喜夫	37年化 高橋 忠之
28年機 小白井 和典	32年電 渡辺 英雄	38年電 橋本 政巳	38年電 新沼 厚生

28年電 中原 太平	32年電 立見 登志雄	38年電 今橋 登美男	39年機 北島 正保
28年電 山口 茂男	32年電 山下 正明	38年化 松浦 正明	39年化 竹沢 英明
28年電 橋本 久美	32年機 柴田 勇治	39年機 笥 逸男	40年金 松本 二郎
29年金 照沼 清	33年原 三浦 陽	39年精 皆川 泰信	40年精 大泉 雅靖
30年機 佐藤 久弥	33年短電 伊藤 誠二	39年電 木村 彰良	40年電 照井 健生
30年原 成井 浩	33年電 佐藤 馨	40年機 宮崎 洋和	40年化 田中 栄太郎
31年機 横山 亨夫	34年機 門田 紀	40年機 菅谷 忠雄	42年金 松原 敏夫
31年機 高橋 義博	34年電 高野 史雄	40年機 熊倉 通	42年精 下ノ村 勇
31年原 鈴木 賢一	34年電 森田 敏夫	40年機 大塚 由則	46年子 大崎 孝明
32年機 木村 敏一	35年機 宇留野 清	40年電 山崎 輝行	46年電 狩野 守
32年原 鳥羽 宏	35年電 小島 正	49年金 松田 研治	平7年子 箱田 秀孝
32年電 小室 秋生	36年機 横山 馨	53年精 中川 寛	平8年院 東 学

16年原 林 義雄	23年原 飯島 公正	30年原 鈴木 日出男	38年機 中村 好秀
17年機 岡崎 幸晴	23年電 塩野 譲	31年電 大内 孝	38年機 三上 秀彦
19年精 小泉 正男	24年機 白土 四男	32年機 溝口 知昭	38年機 大原 祥生
19年電 関口 利男	24年舶 小峰 弘	32年原 榊原 康夫	38年機 大原 節
20年機 佐川 邦一	26年金 葛目 義郎	32年電 田崎 耕八	39年機 持田 幸武
20年通 山本 奎兵衛	26年原 渡邊 貢	32年電 横山 衛	39年短機 猿田 俊彦
20年電 金原 正	28年機 生田目 喜敏	33年原 田代 日出夫	40年機 阿部 国土
22年原 石川 義男	28年金 赤城 清	33年電 鳥居 由幸	40年機 市村 英機
22年原 唐沢 繁美	28年電 今給黎 高俊	34年原 篝 能晴	40年化 鈴木 勉
22年通 今井 俊夫	28年電 大森 通	36年機 笹生 右	43年子 佐藤 将彦
22年原 植田 英	28年電 玉川 信二	36年電 佐川 文男	43年電 後藤 豊弘
22年精 中村 哲夫	28年電 近江 義勝	37年機 腰山 英弥	45年子 藤枝 伸一
22年通 林 猛雄	28年電 白瀬 達郎	37年機 野本 光彦	52年機 角田 瑞彦
22年電 野坂 賢司	29年機 今村 純一	37年化 寺門 紘	53年電 水島 好彦
23年教電 千野 吉治	29年機 雨澤 道雄	38年電 田川 政行	60年化 銭場 礼士
23年原 広田 徳蔵	30年金 三本木 武	38年機 牧山 永三	平7年電 浜田 拓二

合計252名

## 編集後記

21世紀の幕明けで今年はスタートいたしました。東京支部会報を従来の編集者石川 守竹氏(昭24専舶)の死去により編集担当者も変りました。未熟な私達ですが、会員の皆さんのご協力によって、東京支部会報第4号を発行することができました。

今後は更に内容の充実をはかり、会報が会員相互の絆を強める機能が十分果せるように、より一層の努力をして行きたいと編集担当者全員が考えております。どうぞご期待ください。

## 新任編集担当委員

鈴木 日出男(昭30学原)  
三本木 武 (昭30学金)  
溝口 知昭 (昭32学機)  
大原 節 (昭38学機)

## 東京支部会報〔第4号〕

発行 平成13年8月1日  
発行者 渡辺 益男  
東京都豊島区池袋4-4-8  
(株)渡辺建築事務所内  
TEL 03-3987-1946(代)

# 多賀工業会 東京支部会則

昭和60年6月7日

1. 本会は、多賀工業会東京支部と称する。支部事務所は、東京都千代田区麴町1-4東條会館内におく。  
会員は、多賀工業会会員のうち東京並びに近隣に在住在勤する者で組織する。
2. 目的と事業
  - 1) 会員相互の親睦を図る。
  - 2) 情報交換の場とする。
  - 3) 発展向上のための講演会及び研修会などを行う。
  - 4) 本部理事会に建設的な意見具申をして、母校の発展と会員相互の利益を図る。
3. 役員
  - 1) 役員は、支部長1名・副支部長若干名・幹事(卒業年次毎に各1名以上)とする。
  - 2) 幹事長1名・会計1名・会計監査2名は役員の中より支部長がこれを委嘱する。
  - 3) 役員の選出は会員の中から総会で決定する。任期は2年とし、重任を妨げない。
  - 4) 本会は総会の議決をもって別に顧問・相談役などをおくことができる。
4. 運営
  - 1) 総会は、年1回開催する。それ以外に必要性が生じた場合は役員会へ図る。
  - 2) 役員会は、支部長が運営上必要と認めた役員をもって開催し、出席者の3分の2以上の賛成を得たものを決議事項とする。
5. 会計  
会の運営は、行事出席者よりの徴収会費、寄附金および本部補助金でまかなう。会計年度は4月1日より翌3月31日とする。
6. 総会開催日は、多賀工業会会報誌面に発表するとともに書面にても通知する。

注) 3…改正、4…一部追加、5…一部改正、6…一部追加

平成9年9月27日

# 多賀工業会東京支部總會々場



ご婚礼・ご宴会・お写真

【 会議・美容・着付け  
出張パーティー 】

パンフレットをお送り致します。

東条インペリアルパレス

半蔵門 東條會館 ☎ 3265-5111  
〒102-8525 東京都千代田区麴町1-12

## K.K. 渡辺建築事務所

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-4-8

TEL 03-3987-1946 FAX 03-3985-3433

代表取締役 渡辺 益男 (昭19専精)

設計した主な顧客

(官庁)

東京都庁

各区役所

埼玉県庁

川口市等

その他

(民間)

本田技研工業(株)

信越科学工業(株)

日本マタイ(株)

トステム(株)

その他

建築設計監理

(コンサルタント)

著書 工場建築デザイン

(日刊工業新聞社)

平成7年5月出版

空調・換気設備

給排水衛生設備

浄化槽各種水槽

} 設計・施工

保守管理槽

## 千代田工業株式会社

代表取締役 近江 義勝 (昭28学電)

〒113-0032 東京都文京区弥生2-8-6

TEL・FAX (03) 3811-3411 (代表)